



三豊市成人式が終了しました。756名の成人のうち、8割近い562名が参加して、盛大でさわやかな式典が挙行されました。この若者たちが豊かな人生を送って欲しいと、皆さまとともに心から願うものです。地球の温暖化が言われて久しくなります。二酸化炭素が温室効果ガスとなり、気候が変になってきて、まだ大丈夫と思いつけても、いつかのように、われわれ

「燃やせるごみ」を燃やさずに微生物処理して、固形燃料等に資源化するトンネルコンポスト処理を計画しています。これが実現すれば三豊市のごみは95・3%が再資源化されることになり、資源化処理率日本一を目指すことが出来ます。28年度中の

大人たちに真剣な議論と行動が起きません。三豊市では、平成21年のごみの18分別を市民の皆さまにお願いし、おかげで現在、再利用されずに、ごみとして焼却されているのは生ごみ、紙ごみの「燃やせるごみ」だけとなっています。

一方、5年前から、三豊の美しい自然と環境を守ろうと、子どもたちが立ち上がりました。市内の小・中・高校のすべての代表が集まり、環境サミットを開催しています。「みとよヤングエコサミット」です。今年度も第5回目のサミットが市民交流センターで開催されました。

また、環境問題を考える権威ある会、全国地球温暖化防止活動推進センターの

市政報告

循環型環境都市を目指して

三豊市長 横山忠始

資源化処理率日本一へ

三豊市では、今後、この「燃やせるごみ」を燃やさずに微生物処理して、固形燃料等に資源化するトンネルコンポスト処理を計画しています。

これが実現すれば三豊市のごみは95・3%が再資源化されることになり、資源化処理率日本一を目指すことが出来ます。28年度中の

みとよヤングエコサミット

ペットボトルのキャップや空き缶を集め、ごみを無くしながら、かつ、資金をつくり、発展途上国の子どもたちにワクチンを送る。もたちにワクチンを送る。使われなくなった運動靴を、アフリカの靴のない裸足の子どもたちに送る「スマイルアフリカ」への参加。キウウリなどのつる性植物を育てて、教室の窓にグリーンカーテンをつくり、冷房を抑制する等、素晴らしい活動が報告されています。

毎年、各学校の活動は進歩していますが、今年はいよいよ「大人や地域ともつながって活動を進めたい」という意見が何校から出されました。

子どもから大人や地域へつながるといふ新しい、そして素晴らしい動きです。このような活動は、全国にも例が無く、多くの方面から注目されています。

みとよんと学ぶ 先手の防災

緊急地震速報が放送されたその時！の対応を学びます。

M's Lesson ①

もしあなたが電車に乗っているときなら

- 電車は揺れを感じると、自動的に停車します。網棚からの落下物に注意し、つり革や手すりにしっかりつかまりましょう。
- 座っているときは、かばんなどで頭を保護しながら、上体を前かがみにしましょう。
- 勝手に車外に出ず、係員の指示に従って行動しましょう。



表紙 今月の市民力



仁尾町内の子どもたちで構成している「ちびっこ清掃探検隊」。仁尾町児童館が参加を呼びかけ、26年度に発足。まちづくり推進隊仁尾と協力して、道端や溝の美化活動をしながら、地域の中の危険箇所を確認しています。

昨年12月26日も町内を巡回し、ごみを拾い集めながら、地域の人に「困っていることはありませんか」と声を掛けていきました。町内をくまなく歩き、危険な場所を確認する姿に、地域の人も感謝の言葉を返しています。

ごみが多かった場所や危険な場所はマップに書き込んでいき、町内の安全マップとしてまとめていきます。参加した子どもたちは「地震などが来たときに、どこが危ないのかを知っていると、安全な道を通って逃げられます」とニコニコ。活動を通じて地域とつながりが深まるだけでなく、一人ひとりの防犯・防災意識も高められています。



低炭素杯2015に、この「みとよヤングエコサミット」が選抜され、幹事校である香川西高校が代表として、東京で、プレゼンテーションを行うことになりました。

着眼大局 着手小局

地球温暖化を見て見ぬフリをすることは、未来ある子どもたちや若者たちの夢を奪う行為ではないでしょうか。

大きな地球環境問題は、つかみどころがないかもしれませんが、着眼大局着手小局！私たちの日常生活と循環型環境都市づくりを目指します。そして、ごみの資源化処理率を100%に限りなく近づけ、「ごみ」という言葉さえ無くなるまで目指しています。成人した若者たちの未来のためにも、子どもたちとつながって挑戦しましょう。

格別のご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。